

『経済史研究』執筆要項

一 章・節の区分

- * 「はじめに」「むすびに」には数字をつけない。
- * 章は一、二（漢数字）で節は（1）、（2）の算用数字とし、表題をつける。

二 文章の表現

- * 縦書き、現代かなづかい。ただし、引用文は原文どおりとする。
- * 漢字は原則として常用漢字をもちいる。ただし、漢字とかなを混用した熟語は避ける。
- (例) 奴れい↓奴隷 編さん↓編纂

三 数字・年号の表記

- * 漢数字を並べ、十、百、千は使用しない。ただし、万以上はもちいる。
- (例) 二三〇頁 二五三六名 三万二〇〇〇石
- * 分数は、三分の一、二〇分の七 などとする。
- * 小数点は、中黒をもちいる。
- (例) 四・八kg 二五・三%
- * 数の幅は、波ダッシュ(～)をもちいる。
- (例) 三〓六 一六五〓一六七頁
- * 年月日には、十をもちいない。
- * 年号をもちいる場合は西暦を併用する。
- (例) 元禄八（一六九五）年二月二五日

四 註・文献

- * 註番号は（1）から起こして、通し番号とし、論文末尾に一括して掲げる。
- * 引用文献は、単行本では、著・編者名『書名』（出版社、刊行年）ページの順とし、論文は、著者名「論文名」（『雑誌名』号数、発行年）ページの順とし、雑誌名が特定しにくい場合は必要に応じて発行所を入れる。

五 図・表・写真・史料について

- * 図・表はなるべく横書きに作り、通し番号（図1・・・、表1・・・）とし、表題をつける。
- * 他の著作物から引用する場合には、出典を明記し、必要に応じて執筆者自身が自らの責任において、原作者または著作権保持者から使用許可を得ること。
- * 引用部分の記載方法については、一部分を「」で本文中に引用する以外は、本文中に二字下げで記載する。